

2012 新春関東研究集会のご案内

子どもの姿から何が見えますか

～子どもの心に寄り添い、子どもも教師も生きる授業をめざして～

「個を育てる教師のつどい」社会科の初志をつらぬく会

■ テーマについて

未曾有の被害を生んだ東日本大震災をはじめ、度重なる自然災害により被害に遭われました地域の皆様へ心からお見舞い申し上げます。また、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、東日本大震災から半年が経過した9月、被災地ボランティアとして瓦礫撤去の作業をしてきました。現地にいると、今までの価値観が覆されるような場面に出会いました。きっと現地の方々は、その度に心の声を言葉に出しながら、自分の気持ちに区切りをつけて前を向いて歩いて歩んでこられたのだらうと思います。側溝にたまった土砂はスコップで取り除けますが、被災地の方々の心にたまった苦しみを和らげることは容易ではないことを実感しました。半年が経過した今でも、震災の被害は続いているのです。

このように現地に赴いたからこそ分かったことがたくさんありました。そして、それは少なからず私自身の自己変革にもつながりました。対象を自分に引き寄せるのではなく、対象に自分が歩み寄るということ。これを教育の現場に置き換えたとき、今回のテーマへと至りました。

私たちは、子どもの姿を自分の都合のよいように解釈していないでしょうか。子どもの心に寄り添っているでしょうか。

子どもの姿から何が見えていますか。

豊かな実践で心が耕された子どもたちは、一つ一つの授業を通して成長しています。そして、それらの授業記録には、仲間との関わりの中で積み上げられてきた一人ひとりの譲れない思いが、発言や行動に何らかの形で表れています。時にそれは唐突な発言で表れる場合もありますが、その発言の裏には、授業の核心をつくような思いが込められているときもあります。したがって、子どもの姿を豊かに見とることが、今後のその子への接し方や学級経営に関わってくると言っても過言ではありません。

本集会では、子どもの姿から見えるその「何か」を共に考えていきたいと思えます。それは、思いや願い、喜びや嬉しさ、もしくは悲しみや苦しきかもしれません。一人では気づかなかったことも、参加者一人ひとりの解釈の違いを共有することで、より深い子ども理解へとつながり、明日の授業へと生きていくことでしょう。

ぜひ、お仲間にも声をかけ、一人でも多くの方がご参会くださいますようお願い申し上げます。

■ 日 時 2012（平成24）年 1月7日（土）～8日（日）

■ 会 場 ホテルおかだ (<http://www.hotel-okada.co.jp/>)

〒250-0312 神奈川県足柄下郡箱根町湯本茶屋 191 TEL 0460-85-6000 (代)

新宿からわずか 85 分で箱根湯本へ。

須雲川と湯坂山に囲まれ都会の喧騒を離れた閑寂な佇まい。

5 本の源泉持ち，豊富な湯量，滝の流れる展望大浴場など 7 種類の温泉を楽しめます。

<東京方面から>

小田急ロマンスカー	新宿→箱根湯本	90 分
東海道新幹線	東京→小田原	42 分
JR 東海道線	横浜→小田原	60 分
箱根登山鉄道 または 小田急線	小田原→箱根湯本	15 分
湯本温泉郷 共同マイクロバス	箱根湯本→(滝通り行) ホテル	5 分
バス・タクシー	小田原→ホテル	20 分
車	東名厚木 I.C.→(小田原厚木道路)→箱根口 I.C.→国道 1 号線	40 分

<名古屋，関西方面から>

車	東名御殿場 I.C.→国道 1 号線→箱根湯本	
新幹線	名古屋→小田原→(箱根登山鉄道又は小田急線)→箱根湯本	
バス・タクシー	小田原→ホテル	20 分

- 箱根湯本駅より湯本温泉郷共同バス，「滝通り行」にご乗車下さい。
(大人/片道 100 円，子供/無料，運行時間は 9 時～18 時 45 分までです)
朝 (チェックアウト) は，8:20 (始発)・8:40，9:00～不定間隔で運行します。
- 11 時 15 分～18 時 45 分の間は，毎時 15 分・45 分に箱根湯本駅を出発します。
ホテルまでの所要時間は約 5 分です。

■ 日 程

◇ 1 月 7 日 (土)

12:45	～	13:30	受 付
13:30	～	14:00	全体会 (開会の挨拶・提案者より・諸連絡)
14:20	～	18:00	分科会
19:00	～	21:00	夕 食
21:00	～		自由交流の会 *飲み物を片手に，交流を深めましょう。

◇ 1 月 8 日 (日)

7:30	～	8:30	朝 食
9:00	～	10:45	分科会 (もっと言いたいこと・成果と課題の整理)
11:00	～	12:15	講演『未熟もの』としての教師－失敗から学び続ける』 講師 松本 健嗣 (元 中井町教育長)
12:15	～	12:30	全体会 (閉会の挨拶・諸連絡)

実践提案者の主張

○ 人のすごさ・生き方にふれ、自分の生活をよりよくするために、その経験を生かしてほしい。

2年生活科「野菜名人の高橋さん」

提案者 土屋 盾二（中井町立井ノ口小学校）

司会者 高木 俊樹（秦野市教育委員会）

協力者 植村 繁芳（中央大学）

本年度、2年生を担当しています。学級の子どもたちは、なんでも意欲的に取り組むことができます。今回は、ダイコンづくりを通して、高橋さんのすごさに少しでもふれ、知ってほしいと願っています。そして、この単元を通して、一生懸命取り組むことの大切さ、友達を認めることの大切さに気づいてほしいと思い、実践を進めました。

集会で学んだことを生かし、これからの授業・学級経営にいかしたいと考えています。

○ 学習問題に対して、自ら調べることを通して、自分の考えにこだわりを持ち、思いを伝え合う中で、互いの良さに気づきあえる授業を目指して

5年社会科「私たちと自動車産業～電気自動車「日産リーフ」を開発する人たち～」

提案者 中島 健太朗（平塚市立なでしこ小学校）

司会者 山田 美保（平塚市立富士見小学校）

協力者 安喜 誠司（平塚市立なでしこ小学校）

自ら調べ、考えを発表しあい、互いの考えに気づくことで学びの楽しさを味わってきている子どもたちです。「先生、調べてきたよ！」とノートやカードを見せてくれる姿を見ると、とてもうれしくなります。よく調べてきて発言するのですが、仲間からの反応がもうひとつであるAさん。自分がよく知っていることに価値を置き、自分の考えを見直そうとしないBさん。この二人のことを気にしながら、実践を進めました。子どもの持つよさを引き出すことのできる授業について、考えていきたいです。

○ 算数における「切実な問題解決」とは、なんだろう？

～教師自身の算数の力量の課題とTくんの他者との関わりを通して～

5年算数科「数の世界を広げよう 分数・分数のたし算ひき算・分数のかけ算・わり算」

提案者 中野 富雄（八王子市立緑が丘小学校）

司会者 岸野 存宏（東京学芸大学附属世田谷小学校）

協力者 鎌田 和宏（帝京大学）

結果を求め、過程がとんでいる子ども。手順は身に付いているが、考え方が身に付いていない子ども。不安が先に立ち、集団の中で自分の意見を出せない子ども。算数の授業の中で気になってしまうのは、そのような子どもの姿です。しかし、教師のはたらきかけが子どもを不安にさせているのかもしれない。教師に教科の力量がないと、子どもの姿が見えてこないのでしょうか。

算数の授業における「切実な問題解決」とは、何なのでしょう。教師の出す問題が、どこで「子どもの問い」に変わるのでしょうか。Tくんにとってはどうなのでしょう。考えていきたいと思います。

○ ともに問題解決し続けていく子どもをはぐくむ社会科学習を目指して

5年社会科「水俣が語りかけるもの～“もやい直し”でつなぐ人と人、そして自然」

提案者 由井 蘭 健（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校）

司会者 小林 宏幸（横浜市立城郷小学校）

協力者 重松 克也（横浜国立大学）

子どもは自分の生き方に強くこだわります。こだわりが強ければ強いほど、現実の社会に根ざす切実な問題が、自分たちの生き方と結びつき「自分たちの問題」として思考・追究していきます。そして、教室の仲間や教師、そして教材とのかかわりを通して、複眼的な価値判断をもとに意思決定していきます。安易に黑白をつけずに、灰色の結論を探り続けていく問題解決的な学び、つまり、社会に目を開き、自らの生き方を問い続けていく学び。このような学びを追い求めて本単元を実践しました。

■ 講師紹介 松本 健嗣 先生

神奈川県中井町立中村小学校をふり出しに、足柄上郡内の小学校を異動し、最後は中井町立井ノ口小学校長として定年をむかえる。その間、南足柄町(現南足柄市)立福沢小学校、松田町立松田小学校で戦後教育の開拓者として名を馳せた井上喜一郎校長の薫陶を受けた。

また、本会員として、上田薫、重松鷹泰、山田勉、市川博、影山清四郎の諸先生や全国各地の気鋭の教育実践者や研究者などから強烈な影響を受け、子ども世界の奥行きの高さと豊かさに眼をひらいた。定年退職後は、保育園、幼稚園、横浜国立大学教育学部非常勤講師、中井町教育長などをつとめる。中井町立井ノ口小学校、中井町教育長を経て退職。現在は、本会の評議員である。

近著に、『未熟もの』としての教師(2009)農山漁村文化協会がある。

■ 参加申し込み

(1)参加費

- ・ 宿泊 19500円 (学生 18500円) 1泊2食付
- ・ 通い(夕食まで参加) 17000円 (学生 16000円) 夕食付
- ・ 通い(夕食なし) 3500円 (学生 2500円)

(2)申し込み方法

- ・ 別紙「参加申込書」に記入の上、**FAX(0465-74-2938)**にてお申し込みください。
- ・ 参加費は、当日受付でお支払ください。

(3)取消料について

申し込み後、お客様の都合で参加を取り消される場合は、下記の取消料をお支払いいただきます。宿泊される皆様を対象とし、前日から起算してさかのぼり、次のようになります。

申込日～8日目まで	・・・	無 料
7日目～前々日まで	・・・	宿泊代金の 20%
前日(1月6日)	・・・	宿泊代金の 30%
当日(1月7日)	・・・	宿泊代金の 100%

(4)締め切り日 平成 23 年 12 月 24 日(土)

■ 問い合わせ先

その他、お聞きになりたいことがありましたら、下記にご連絡ください。

<事務局> 遠藤 友樹 e-mail: jack610@hotmail.co.jp

TEL: 0465-74-2938 (FAX 兼)

TEL: 0465-74-2412 (南足柄市立岡本小学校)

なお、この案内文書は次のホームページにも掲載されております。

- ・ 社会科の初志をつらぬく会～個を育てる教師のつどい～ (<http://www.s-syoshi.com/>)

「2012 新春関東研究集会」参加申込書

FAX 番号 0465-74-2938

遠藤 友樹 行き

氏名(代表者)・性別	男 女			
自宅住所				
電話番号				
FAX				
e-mail				
勤務先・通学先	(学生) 学生の方は○を			
希望分科会	A() 2年生活・土屋教諭	B() 5年社会・中島教諭	C() 5年算数・中野教諭	D() 5年社会・由井園教諭
参加方法	① 宿泊 ・ ② 通い(夕食あり) ・ ③ 通い(夕食なし)			
備考				

<その他の参加者> (上記を参考に、希望分科会は「A, B, C, D」, 参加方法は「①, ②, ③」より一つ選びご記入ください。)

氏名(男女)	自宅住所(自宅電話番号)	勤務先・通学先	分科会	参加方法
(男女)	TEL ()	(学生)		
(男女)	TEL ()	(学生)		
(男女)	TEL ()	(学生)		
(男女)	TEL ()	(学生)		
(男女)	TEL ()	(学生)		
(男女)	TEL ()	(学生)		
(男女)	TEL ()	(学生)		

申込締め切りは、平成 23 年 12 月 24 日 (土) です。

※ 期日を過ぎてからの申込みは、必ず事務局（遠藤）まで電話等でのご連絡をお願いします。

※ FAX 番号はお間違えのないようお願いいたします。

こちらは裏面です。
送信面をご確認の上
送信してください。

FAX 0465-74-2938

遠藤 友樹